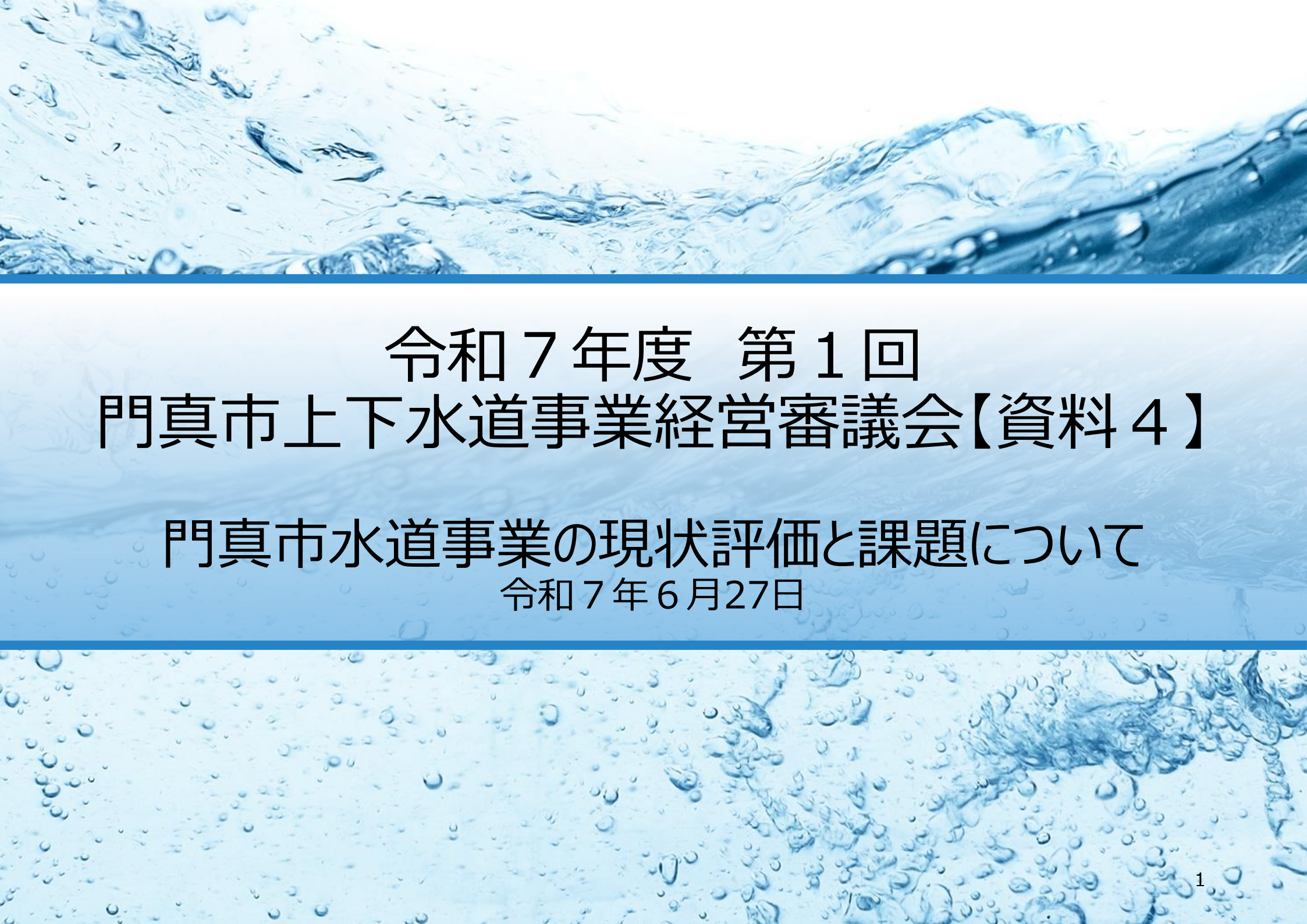




令和7年度 第1回 門真市上下水道事業経営審議会【資料4】

門真市水道事業の現状評価と課題について 令和7年6月27日

1

門真市水道事業の現状

門真市水道事業の概要



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」10ページ

門真市には、自己水源がなく、全水量を大阪広域水道企業団から高度浄水処理した水道水を購入しています。

大阪広域水道企業団から受水している地点は、「泉町浄水場」と「上馬伏配水場」の2つの施設であり、泉町浄水場は庭窪浄水場から受水し、門真市の中央部を南北に流れる古川を境として概ね西側地域に配水しています。

一方、上馬伏配水場は、村野浄水場から受水し、古川から概ね東側地域に配水しています。



門真市水道事業の沿革



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」9ページ

昭和40（1965）年、前身の茨田上水道組合による水道事業を門真市、守口市及び寝屋川市で分割継承して、門真市水道事業が発足しました。

これまでの沿革は、以下の表のとおりです。

名 称	認可年月日	事業期間	計画給水人口（人）	計画一日最大給水量 (m ³ /日)	主な事業内容
第1次拡張事業	S39.12	S40.4～S46.3	151,130	61,960	配水場建設 市内全域加圧配水
第1次拡張変更事業	S45.3	S45.4～S53.3	151,130	61,960	急速ろ過池、 集中管理棟建設
水道施設等整備事業	－	S52.4～S61.3	－	－	市内全域配水管整備
第2次水道拡張事業	S61.3	S61.4～H8.3	151,130	72,000	配水場新ポンプ棟建設 給水モニター設置
第2次水道施設等整備事業	－	H8.4～H15.3	－	－	沈でん水廃止による 受水ルート変更 緊急遮断弁設置
第3次水道施設等整備事業	－	H15.4～H22.3	－	－	第二京阪道路建設に 伴う配水管整備
第4次水道施設等整備事業	－	H22.4～H29.3	－	－	老朽管更新
第5次水道施設等整備事業	－	H29.4～R4.3	－	－	上馬伏配水場4号配水池新設 老朽管更新
第6次水道施設等整備事業	－	R4.4～R9.3	－	－	泉町浄水場更新 老朽管更新



2 現状評価と課題について



現在の「門真市水道事業ビジョン」の以下の3つの観点から、現状評価を行いました。

持続（水道サービスの持続性は確保されているか）

安全（安全な水の供給は保証されているか）

強靱（危機管理への対応は徹底されているか）

現状評価・課題の抽出にあたっては、「水道事業ガイドライン」に基づく業務指標（PI値）を活用しました。

次ページ以降、水道事業ビジョンに掲載の項目について、分野ごとに数値の推移等を説明します。

持 続・・・水道サービスの持続性は確保されているか

- 事業を効率的に運営できているか
- 必要な財源は確保できているか
- 水道サービス向上に向けた取り組みができているか

安 全・・・安全な水の供給は保証されているか

- 安全な水を供給する体制ができているか

強 靱・・・危機管理への対応は徹底されているか

- 施設更新を適正に行い、災害発生に備えた施設整備ができているか
- 災害発生時の活動体制は構築できているか

① 持続 ①職員一人当たり有収水量

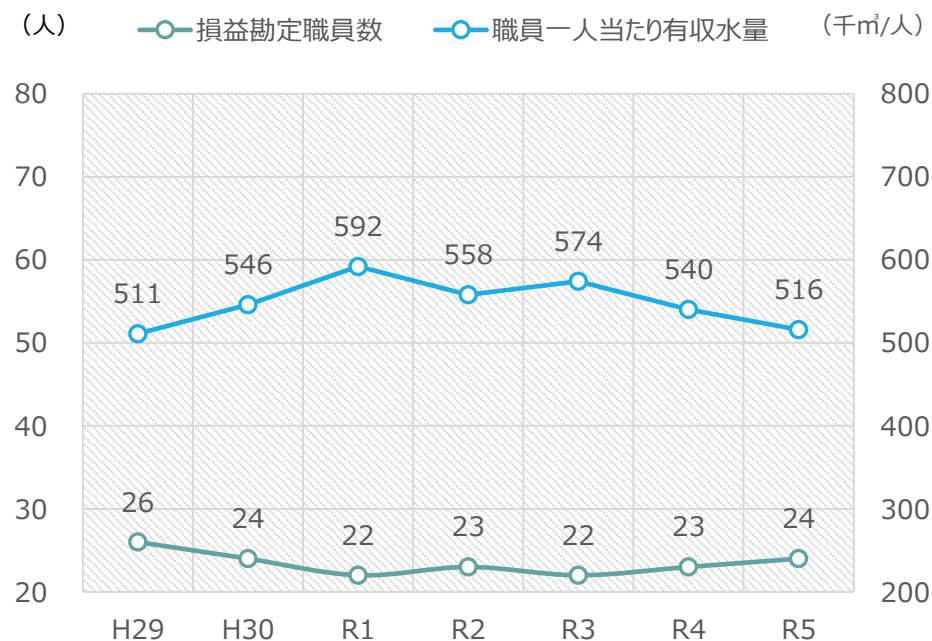


「門真市水道事業ビジョン（改定版）」13ページ

- 有収水量とは、水道料金徴収のもととなる水道水の量のことをいいます。

水道事業ビジョンの計画期間においては、職員数及び職員一人当たりの有収水量は増減を繰り返しています。

- 人口減少、節水意識の向上等に伴い、有収水量は減少傾向にあることから、業務の効率化を行っていく必要があります。



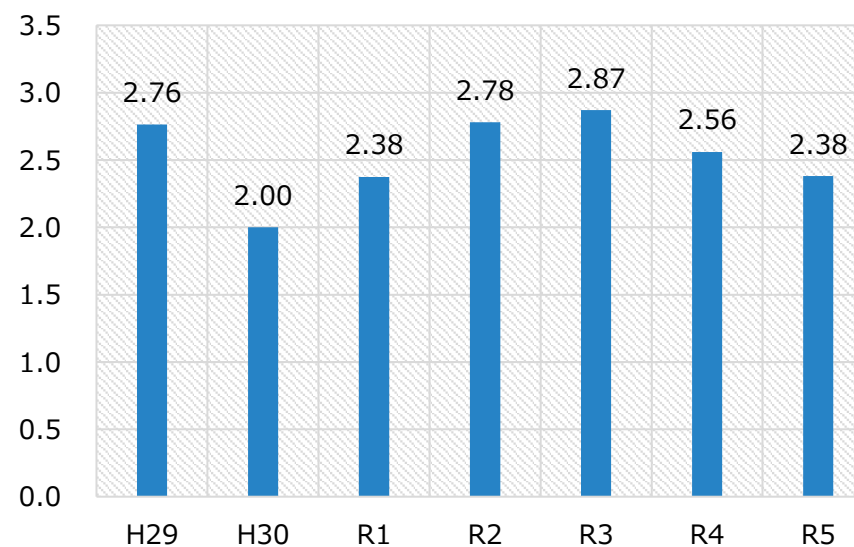
① 持続 ② 水道技術に関する資格取得度



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」14ページ

- 平成29(2017)年度からは年度ごとの変動があるものの、全体的には安定した数値となっています。
- 当該指標の向上により、人事異動や職員構成の変化に対しても安定した事業運営を行うことが可能になります。

(件/人)

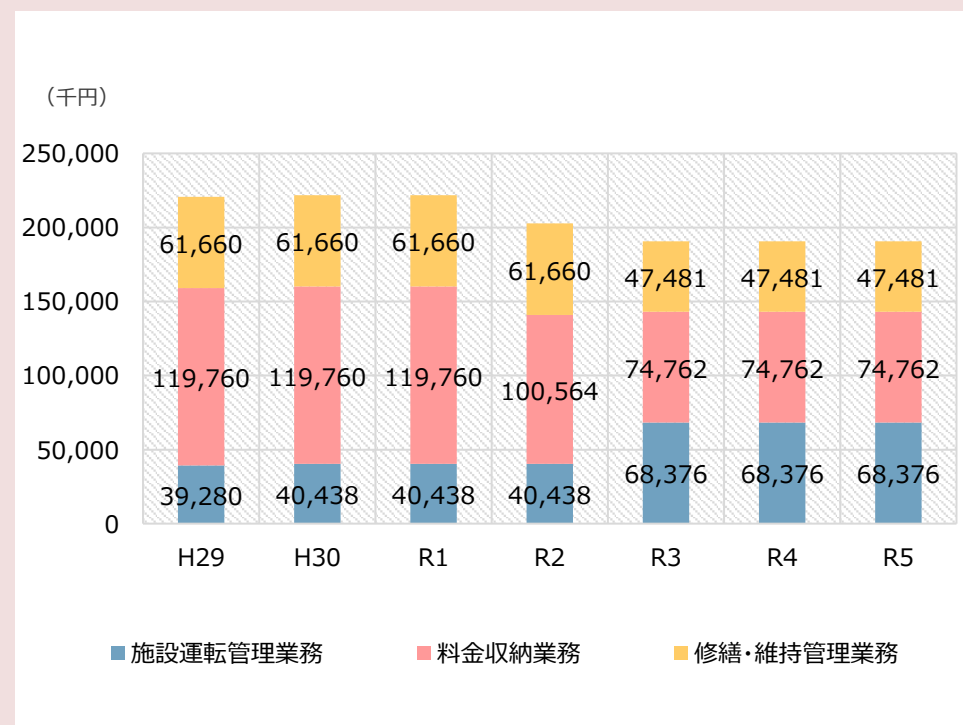


① 持続 ③ 主な業務委託費の動向



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」15ページ

- 「修繕・維持管理業務」「料金収納業務」「施設運転管理業務」の業務委託費の合計を示しています。
- 業務委託費の合計は、令和3(2021)年度以降減少しています。

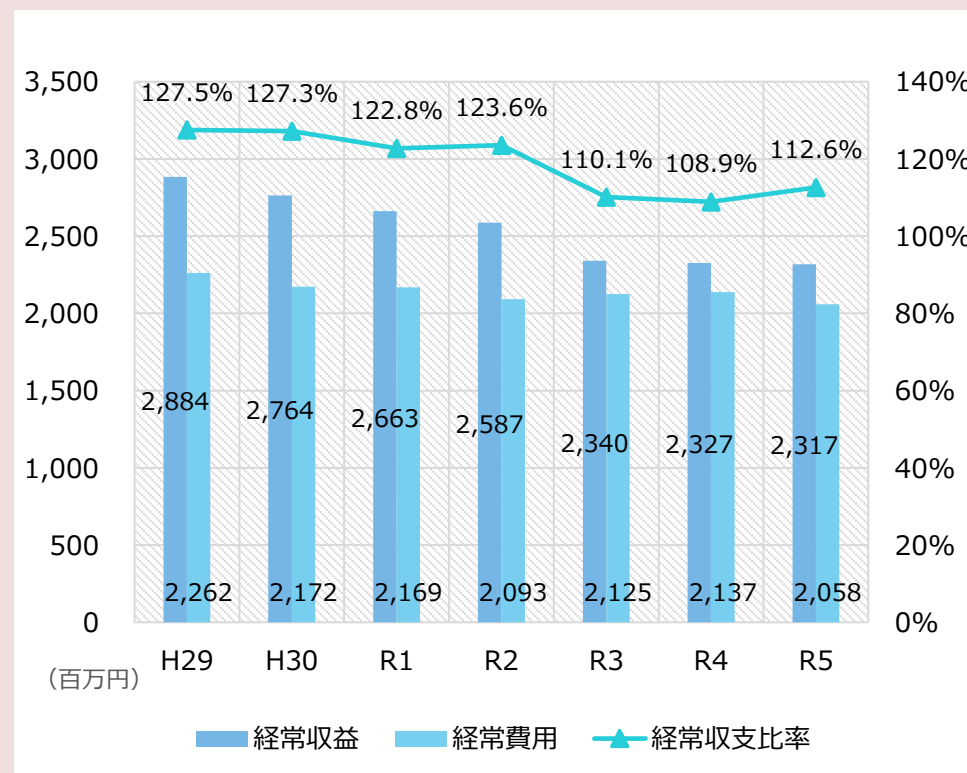


① 持続 ④ 経常収支比率



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」16ページ

- 経常収支比率とは、経常費用が経常収益によってどの程度賄われているかを表す指標で、経営状況の安定性を示すものです。
- 令和3(2021)年1月に水道料金を約9%引き下げたことにより、経常収支比率は令和2(2020)年度までに比べるとやや下がったものの、100%を超えており、良好な水準にあるといえます。
- 人口減少等により営業収益が減少傾向にあることから、引き続き収支バランスを踏まえた事業運営が必要です。

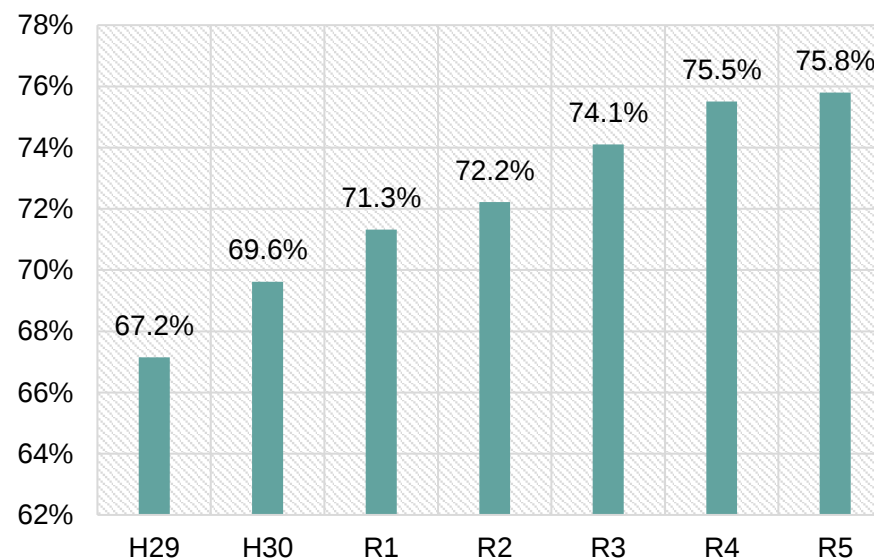


① 持続 ⑤ 自己資本構成比率



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」17ページ

- 自己資本構成比率とは、総資本（負債及び資本）に占める自己資本の割合を示し、高い方が財務的に安定しています。
- 平成29(2017)年度以降数値が上昇しており、財務的に安定している傾向を示しています。

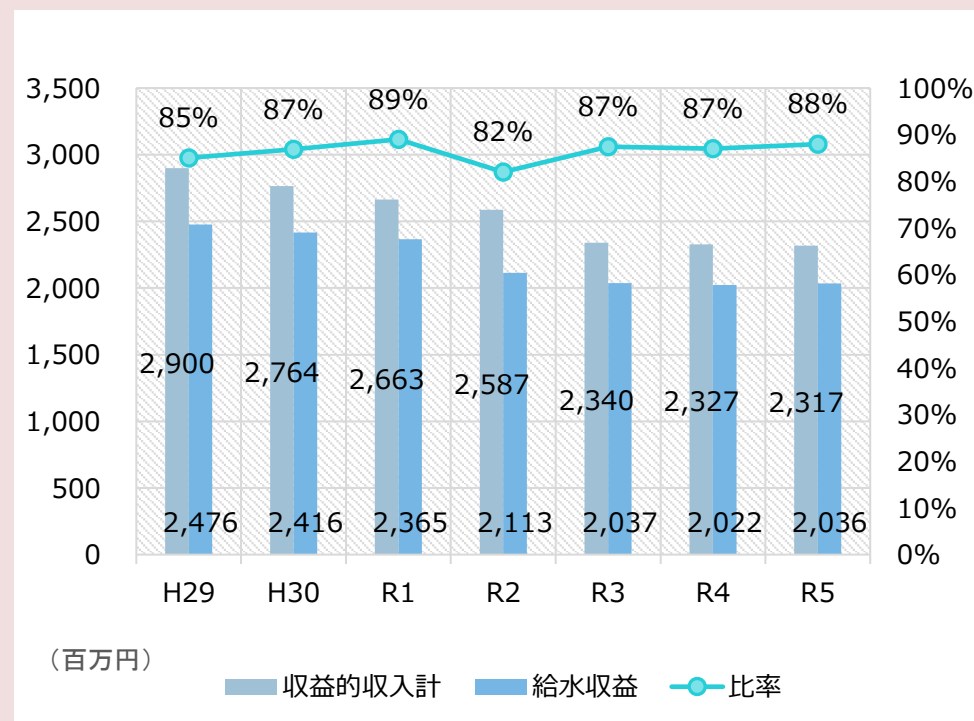


① 持続 ⑥収益的収入に対して給水収益が占める割合



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」18ページ

- 平成29(2017)年度から令和 5 (2023)年度における割合は、平均して86%と高い数値を示しています。
- 本市水道事業は、給水収益(水道料金)が主な収入であることを示しています。
- 令和 2 (2020)年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響による減免措置等により、給水収益が占める割合が減少しました。

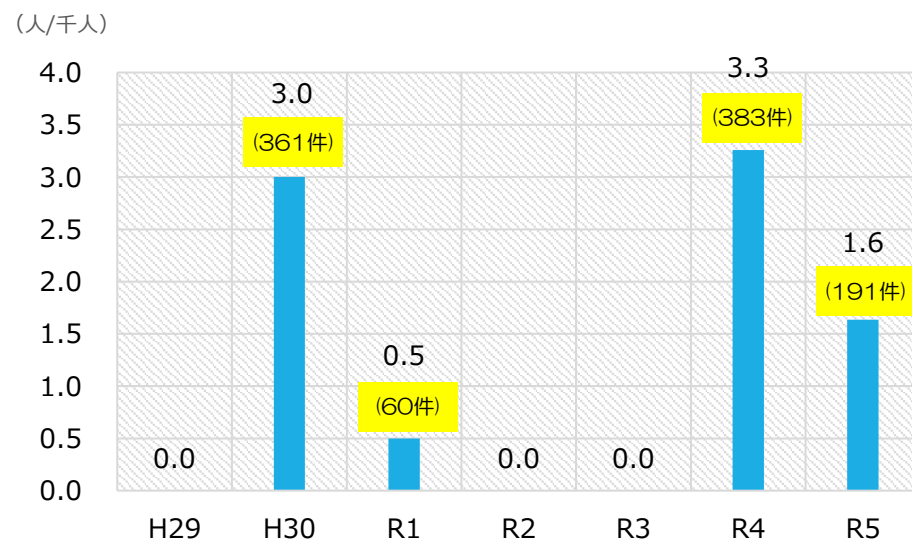


① 持続 ⑦ アンケート情報収集割合



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」19ページ

- 平成30(2018)年度及び令和元(2019)年度にアンケート調査を実施しました。
- 令和2(2020)年度及び令和3(2021)年度は新型コロナウイルス感染症の影響によるイベントの中止のためアンケートを実施していませんでしたが、令和4(2022)年度以降はイベントの再開に伴い、アンケートも実施しています。
- 今後も市民の皆様の意見を収集する方策については引き続き検証していく必要があります。



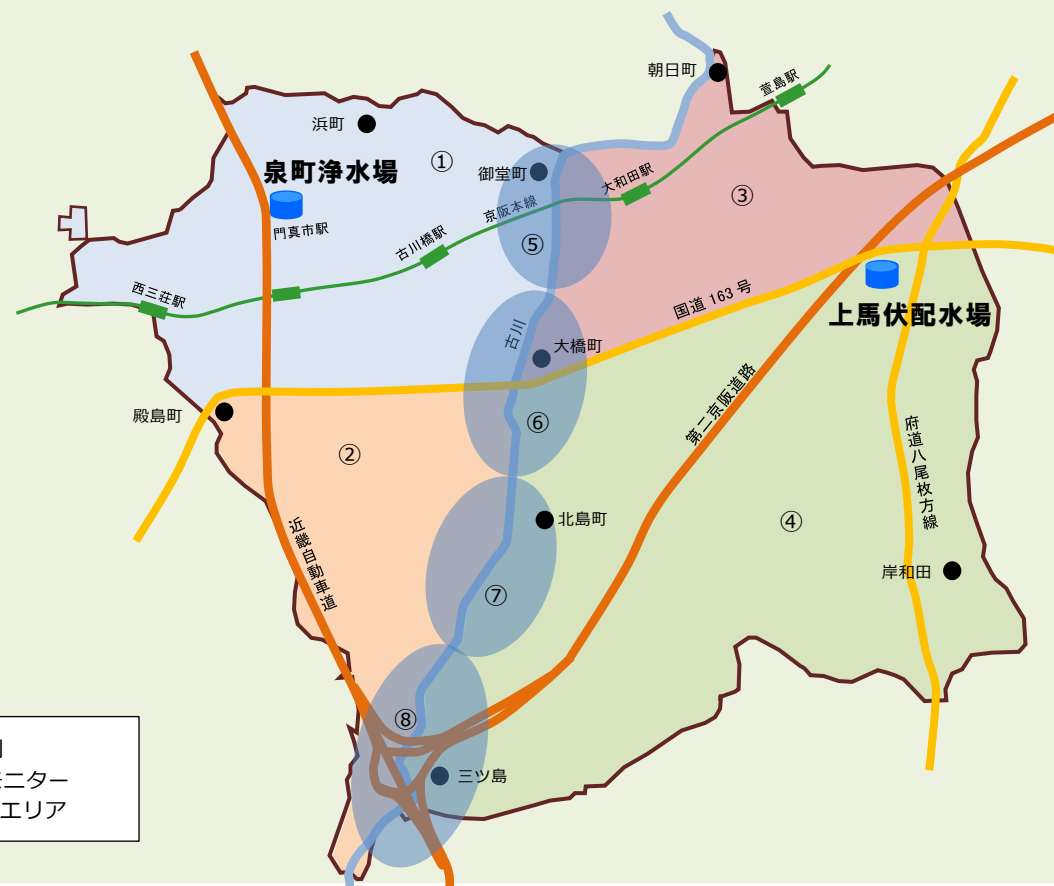
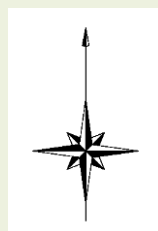
注) グラフの () 内の数値はアンケートの回収数を示します。

② 安全 ① 給水栓水質検査（毎日）箇所密度



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」20～21ページ

- 本市においては、従来市内7か所の給水モニターにより給水栓水質検査（毎日）及び監視を実施していましたが、令和2（2020）年度に水質監視エリア分けが確定し、令和7（2025）年度からは4か所の配水エリアで給水栓水質検査（毎日）及び監視を実施し、他に4か所の重点監視エリアを設定し監視を実施しています。
- 監視状況については、十分な水準を満たしています。

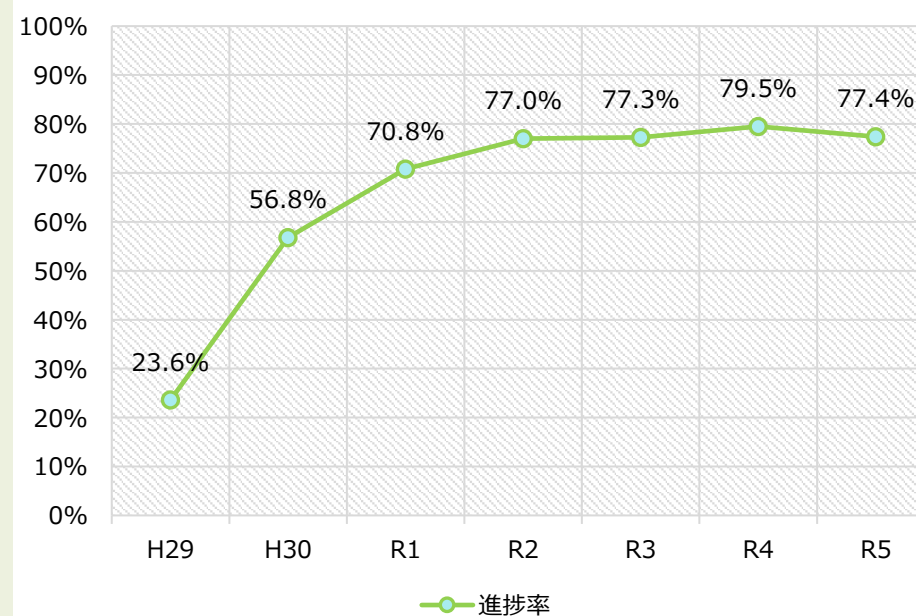


② 安全 ②貯水槽水道指導率



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」22～23ページ

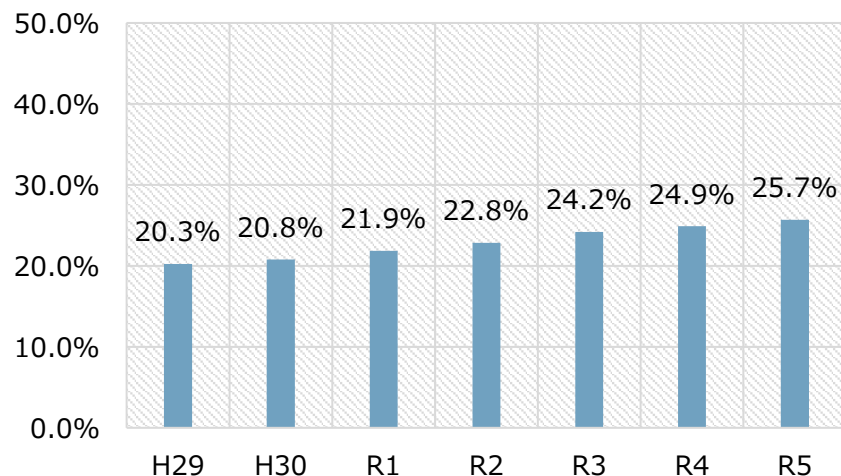
- 貯水槽水道は「簡易専用水道」と「小規模貯水槽水道」に区分され、特に小規模貯水槽水道については、市長部局と並行して指導を行っています。
- 平成29(2017)年度から指導方法を変更した結果、令和2(2020)年度以降の貯水槽水道指導率は77.0%以上の状況を維持しており、目標の75%を上回っています（小規模貯水槽水道の指導率は100%）。



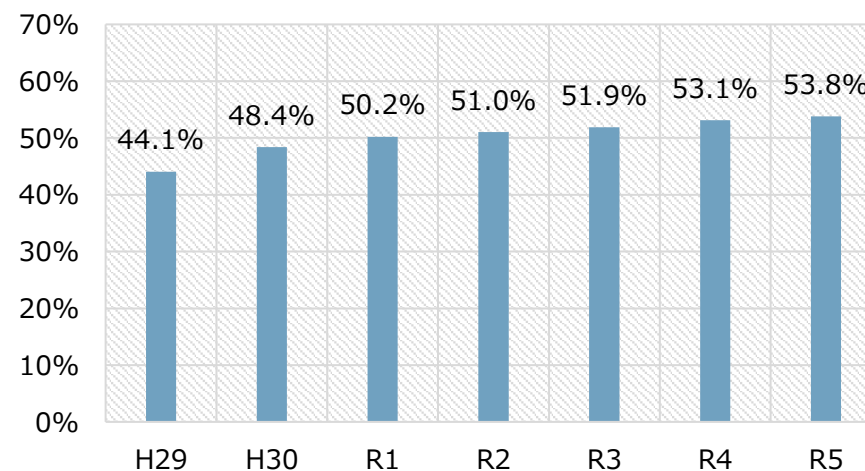


- 管路の耐震化率については、増加傾向を示し、令和 5 (2023) 年度で25.7%となっています。
- 一方、経年化管路率についても、徐々に増加し、令和 5 (2023) 年度で53.8%となっており、類似団体平均に比べて高くなっています。

【耐震化率の推移】



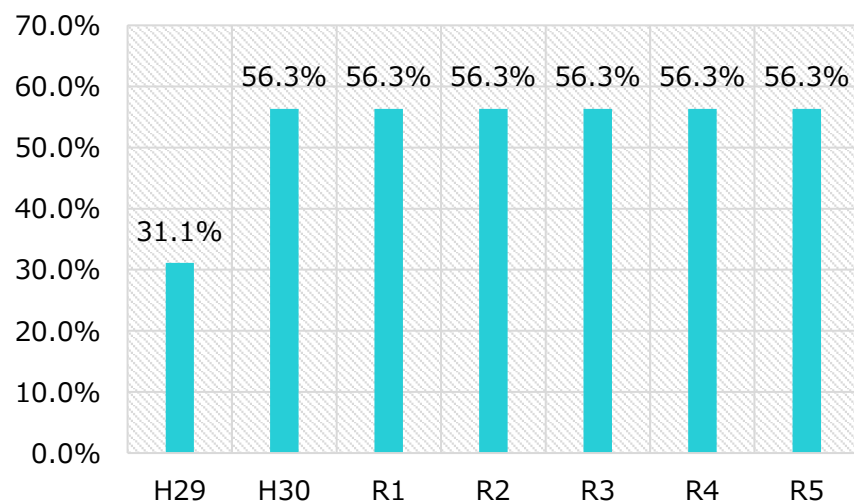
【経年化管路率の推移】



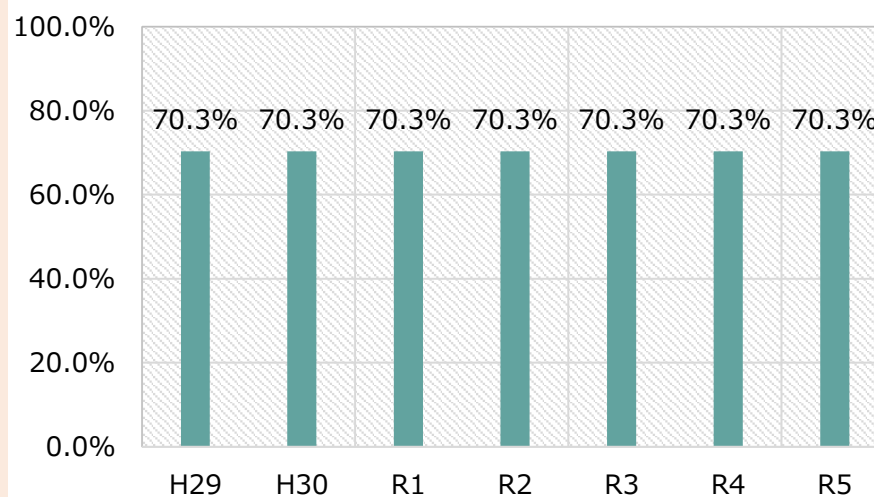


- 配水池耐震施設率は、平成30(2018)年度に上馬伏配水場 4 号配水池が完成したことで 56.3%に上昇しています。
- ポンプ所耐震施設率は、令和 5 (2023)年度で70.3%となっています。現在、進めている水道施設の更新工事で改善していきます。

【配水池耐震施設率の推移】



【ポンプ所耐震施設率の推移】



③ 強靱 ③ 給水車保有度



「門真市水道事業ビジョン（改定版）」29ページ

- 給水車保有度は、災害発生時等に応急給水が可能である車両（給水車）を給水人口1,000人あたりどれくらい保有しているかを示した指標であり、本市では1台を有しています。
- 本市の給水車は、平成17(2005)年に購入したのですが、本年で20年となることから、将来的には新規導入について検討する必要があります。



能登半島地震における給水活動出発の様子